

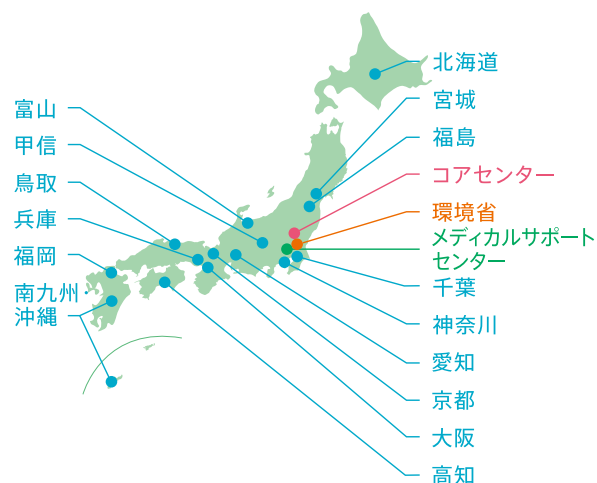
全国15の地域で進行中です!

コアセンター(国立環境研究所)、メディカルサポートセンター(国立成育医療研究センター)を中心として、全国15か所に拠点としてのユニットセンターを設置し、進めています。また、医療機関、自治体、教育機関等からのご支援もいただいています。

参加者の方々には結果をお知らせし、育児等の相談があった場合には、状況に応じて専門医療機関や相談窓口を紹介するなど、専門の医師やスタッフがサポートしています。



全国の調査体制



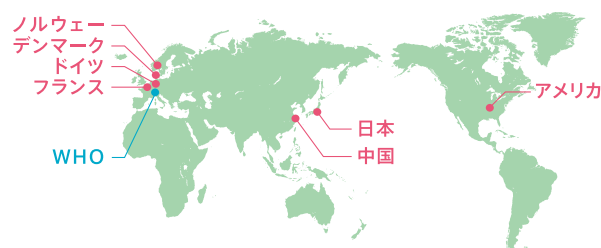
参加者の皆さんの声

- 質問の中には実際に子どもにさせてみないと答えられない項目があり、「できるのかな」と思いながらやらせてみると、意外とできてびっくりします。子どもの成長を感じられる事が良かったと思います。(熊本県在住 Tさん)
- エコチル調査は全国規模で行われている調査なので、それぞれの地域性とか特色なども分かるかもしれないと期待しています。結果を楽しみにしています。(山梨県在住 Tさん)
- わが子の将来や未来の子どもたちに役立つ調査にするためには1人1人の回答が大切だと思い、忙しくても、質問票に回答するようにしています。これからもしっかりと研究していただきたいと思います。(千葉県在住 Yさん)

国際的にも注目されています

2016年5月に開催されたG7富山環境大臣会合において、子どもの環境保健に関する長期的で大規模な疫学調査の一つとして、このプロジェクトは高く評価されました。世界各国で行われている子どもと環境に関連する調査との連携体制を整えています。

世界各国との協力体制



もっと知りたい方へ

環境省エコチル調査ホームページ

<http://www.env.go.jp/chemi/ceh/>

エコチル調査

検索

QRコードからも
アクセスできます▶



お問い合わせ先

環境省環境保健部 環境安全課環境リスク評価室

〒100-8975 東京都千代田区霞が関1-2-2 中央合同庁舎5号館

TEL

03-3581-3351

代表

(内線 6343)

子どもたちは、
あしたの地球を生きてゆく。



子どもの健康と環境に関する全国調査

エコチル調査



エコチル調査は、2010年度に環境省が始めた大規模な国家プロジェクトです。

環境中の化学物質が、子どもの健康にどのように影響するのかを明らかにし、「子どもたちが安心して健やかに育つ環境をつくる」ために、2027年度まで続けられます。

なぜ調べているの？

① 私たちを取りまく環境中には「化学物質」が含まれています

科学技術の進歩に伴って、私たちの身の回りには人工的に作り出された「化学物質」を含む製品が増え、それらを利用して生活しています。

一方で、こうした化学物質が人々の健康にどのような影響を与えるのか、まだ詳しくわかっていません。

特に胎児や子どもは、化学物質の影響を受けやすいのではないかと懸念されています。

「化学物質」を含む製品の例



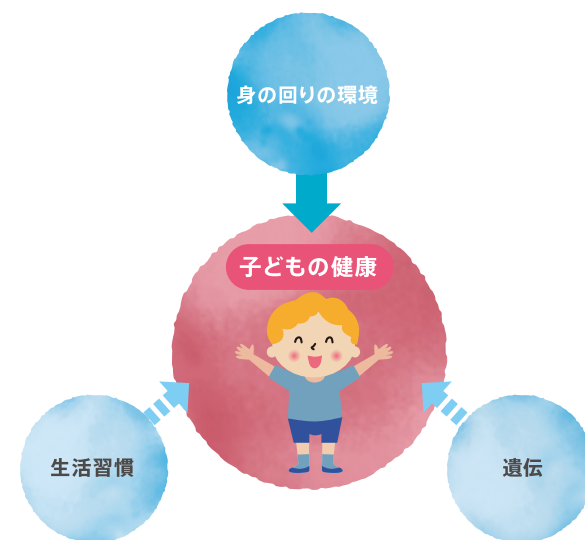
② 環境が子どもたちの健康に与える影響を解明します

近年、子どもたちの間でぜん息やアトピーなどのアレルギー疾患や肥満、発達障害などが増加傾向にあります。それらの多くは、身の回りの環境、食事や運動といった生活習慣、遺伝的な性質などが関係しあっているといわれています。

このプロジェクトは「身の回りの環境」に注目し、何が子どもの健康に影響しているのかを明らかにしようと、2010年度に始まりました。

このプロジェクトをもとに、環境によって起こる病気を予防するための政策をつくったり、子どもが健やかに育つための環境を整備したりすることができます。

今の子どもたちだけでなく、未来の子どもたちにとっても大変重要な国家プロジェクトです。



どんなプロジェクトなの？

胎児から13歳になるまでを追跡します

全国10万人の妊婦さんにお話し、生まれたお子さん、そしてお父さんにも協力していただいています。

提供していただいた血液・尿・母乳・毛髪などから、環境中の化学物質などの体内へのとりこみ量を調べ、定期的な質問票調査で、お子さんの健康状態や生活習慣などを調べています。

10万人ものお子さんに参加いただくのは、まれに起こる珍しい病気の要因や様々な病気を引き起こす原因まで明らかにするためには、参加人数が少ないと十分な検討ができないと考えられるからです。

環境省では、専門家からの提言※を受けて、令和4年度に、13歳以降の調査に向けたエコチル調査基本計画の策定を行っています(年度内公表予定)。

※環境省「環境と健康に関する疫学調査検討会」報告書(令和4年3月29日)
<https://www.env.go.jp/chemi/ceh/about/advanced/kongo/archive/index.html>



2010年度	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
	10万組の参加者を募集/採血等の実施			子どもが13歳になるまでの質問票調査																13年間の結果を解析		
	妊娠～出産																					
																						
	13歳																					

5000人のお子さんには、1歳半のときから、より詳しい調査にも参加していただいています。

- ご家庭を訪問し、環境中の化学物質を採取したり、ハウスダストなどを調べます。
- お子さんの発達検査を行います。
- 医師による診察や身体測定、血液検査などを行います。



どんなことがわかってきたの？

化学物質の影響についてわかってくるのはもう少し先ですが、これまでの調査によって、例えば以下のような研究結果が発表されています。ホームページでは、調査からわかってきたことを随時、公開していきます。

妊娠中の喫煙がお子さんの出生体重に与える影響

タバコを吸ったことのないお母さんから生まれた子どもに比べて、妊娠中もタバコを吸っていたお母さんから生まれた子どものほうが、生まれた時の体重が少ない傾向にあることがわかりました。

環境省エコチル調査ホームページ ▶ <http://www.env.go.jp/chemi/ceh/>